

日本人と地藏信仰

ラキチ・パラチ・イヴァ（ザグレブ大学哲学部日本学コース）

iva_lakic@yahoo.it

【要約】

本研究は、地藏が仏教の中で主民にとって一番身近な信仰の対象になっているということを明らかにすることを目的とした。山形県の東堀越という村ではお地藏さんがとても身近なで親しい存在として考えられており、一般の人に分かりやすく教義を説明してくれる菩薩だと思われる。仏教に属する概念なのに、民間信仰に近い気持ちで尊崇されていて、村の人にとってとても大事な保護者である。村の人に取材しながら、その特別な関係について調べてみた。

1. はじめに

初めて地藏信仰について調べたのは 2006 年つくば大学の地域研究科の修士課程の院生として山形県の羽黒山の地域でフィールドワークをしたときである。研究対象は、旧藤島町の地藏菩薩信仰であり、特に東堀越で祀るお地藏様であった。地藏菩薩は一般の人の中で一番人気のある仏様とされている。友達のような存在で、かわいい顔をしているため、日本語には「地藏顔」という表現があり、「まるくてにこやかな顔」、「柔和な顔」、「にこにこ顔」、ということの意味する。古来からなんでもお願いできる存在になっている。

その信仰について、地藏が仏教の中で主民にとって一番身近な信仰の対象になっているということを明らかにすることを目的とした。山形県の東堀越という村ではお地藏さんがとても身近なで親しい存在として考えられており、一般の人に分かりやすく教義を説明してくれる菩薩だと思われる。仏教に属する概念なのに、民間信仰に近い気持ちで尊崇されていて、村の人にとってとても大事な保護者である。村の人に取材しながら、その特別な関係について調べてみた。

研究方法は主に顔を合わせながら村の人々に直接取材し、その中のほとんどの取材対象者は年長者の方で、地藏祭りに参加したことがある女性（大部分 60 歳以外）、お寺を管理するお坊さん、地藏像を掃除してくれるおばあさんなどのような方々である。

なお、具体的に調査がどういうふうに行われたかという点、まず、取材対象者の名前、生年月日を聞いた上で、地藏祭り（毎年 4 月の春祭りと 8 月の秋祭り、そして 12 月の「お年夜」という祭り）に参加したことがあるかどうかを確認し、「ある」と答えたら、どういうふう、どんな気持ちで、どのような質問をした。「ない」と答えたら、祭りというのではなく、地藏さんにお参りしたことがあるかどうか（ほとんどの村の女性は「はい」と答えている）、どんな気持ちで、どういうふう

（供物はあるかどうか、どういったものが供物になるのか、どうしてそのものなのか）などのような質問をした。

今回はアンケートを使って似たような調査を行ってみたい。この前の取材対象者はほとんど 60 歳を越えている、学歴が高くない女性だったのですが、今回のアンケート対象者のみなさんは年齢や性別がばらばらですが、学歴が高いということなので、結果を楽しみにしています。アンケートの質問が簡単で分かりやすく書いてあると思って、特別に説明する必要がないと思いますが、もう少し地藏信仰について説明をさせていただいています。

2. 地藏様の種類とご利益

2-1. 地藏さんとは

地藏とは釈迦の入滅後、弥勒仏が出生するまでの間、無仏の世界に住して六道の衆生を教化・救済するという菩薩である（菩薩とはさとりを求めて修行する人であり、仏に次ぐ崇拜対象ともされる存在である）。地藏像は、菩薩形で表されるが、一般には比丘（びく〜修行僧）形で左手に宝珠を持つ形が流布した。中国では唐代、日本では平安時代より盛んに尊崇されてきた。地藏の種類はさまざま、子安地藏（妊婦の安産を守護する）、六地藏（六道において衆生の苦患を救うという6種の地藏）、延命地藏（延命・利生を誓願とする、病気から守ってくれる）、勝軍地藏（軍神として尊崇される）、水子地藏などがある。

◆ みなさんはどう言った地藏と会ったことがありますか

- ア) 子安地藏
- イ) 六地藏
- ウ) 延命地藏
- エ) 勝軍地藏（かちいくさじぞう）
- オ) 水子地藏

2-2. 東堀越で参拝されている三つの地藏の種類

a) 病気から守ってくれる延命地藏

東堀越には三つの地藏の種類が参拝されている。一つはだれでもお参りできる、村の真ん中にある大きな地藏さん（写真1）である。体が痛いとき、また悪いことが起こらないようにお願いするときに参拝される。そのときに地藏さんに米一升をあげる。その地藏さんの近くの道をとおれば（例えば、畑に行くとき）必ず簡単なお祈りする。そして、頭が痛いときとか、腹が痛いときにも、自分で買った布を持って行って、地藏の体に着せる。頭が痛いときは地藏に鉢巻をし、腹が痛いときは腹巻をする。



写真1 誕生地蔵 東堀越の真ん中にある一番大きな地蔵様

b) 水子地蔵

もう一つの地蔵は水子地蔵であり、村のお寺さん「福昌寺」に置いてある（写真2）。自然になくなった子や、また下ろした子供をあの世で守る地蔵である。



写真2 水子地蔵 東堀越、福昌寺

c) 安産地蔵

三番目の地蔵さんは出産の神様である（写真3）。それは昔、出産が危険なことだったからである。今は誰が参拝するかというと、お嫁に来た女性、長く結婚してまだ子供が出来ない女性などがお母さんに連れていってもらって参拝する。年齢として主に 20・30 代の女性だけである。男性は行かない。そして、子供がほしいときだけではなく、もうすぐ子供が生まれるときも無事に出産できるようにお願いする。その地蔵の名前は子育て地蔵という。ご利益はいろいろで、安産のため、子供を授かるため、子供の成長を守るためである。



写真3 安産地藏 東堀越、福昌寺

d) 添川の宿の隣も六地藏が見える(写真4)。宿のおばあさんに説明をしてもらい、宿のお風呂の中、お湯が出てくるところで健康な体であるように拜んで、ご利益があるようにお金をあげます。そのお風呂を建てたときに、石屋さんに頼んでお地藏さんを作ってもらったのである。つまり、商売繁盛のために建てたと考える。

地藏信仰は深い信仰ではなく、みんなができる信仰だと宿の営業者は説明した。お風呂に入って、誰でも簡単にできる供養なのである。地藏さんに親しみを感じる。だが、あまり深い信仰ではないから嫌う人もいる。宿の営業者は毎年4月23日に赤飯、果物、水を備えて和尚さんと呼んで供養するという。



写真4 六地藏 添川の宿の隣にある

つまり、村の人は何でも地藏さんをお願いする。他の仏様は怖い面もあるのだが、地藏さんはそういうのは全然なく、違和感もない。顔が優しく、ニコニコしていて、丸い感じがするかわいい顔である。村はずれにも地藏さんがよくあったという。今でも電車の踏み切りにもよくある。交通事故があったときになくなった人の冥福を地藏さんにお祈りする。昔はあっちこっちにあって、旅のときに事故が起こらないようお願いし、今でも、そういったところに歩いたりすると村の人々は自然に手を合わせて、簡単なお祈りをする。

3. 地藏祭りとは（昔と現在）

昔は地藏祭りというのは存在していたとしても、今日は同じかたちで存在しない。取材対象者の話によると4月23日と12月23日、そして8月23日にはお祭りがあり、そのときに村の人々が集まって供養していたが、今は地藏があるところに行かれるなら、いつでも、自由に参拝していいという。取材対象者の中で一番年上の秋庭コサギさんは昔、地藏祭りに参加したことがあるが、二人の50代の主婦は個人でお参りするだけである。どうして23日になっているかは知らない人が多い。

4月23日は春祭りと呼ばれる。お昼頃に行き、巫女さん呼んで20人ぐらいのおばあさんたち（60代）が集まる。若者は直接地藏様のところでお参りするという。参加は自由で、家に帰る時間も自由である。

8月23日は秋祭りである。お昼と夜行う。

12月23日は「お年夜」という。夜だけ行う。でも、寒いから人があまりこないという。地藏祭りの日を「お年夜」と呼ぶ人もいるのだが、実は「お年夜」というのは12月23日だけのことを示している。

添川にある養生寺のお坊さんによると、現在は地藏講というのではない。お参りが毎月24日に行われているが、現在は特別な祭りはない。お寺にある水子地藏は20年ごろ前に寄付されたものであり、寄付した人たちの名前は像の後ろに書いてある。出産で子供を失った女性たちが20年前に集まって、その共通した気持ちの下で地藏さんのお寺にしてくれないかと頼んだ。普通の女性たちだった。今は毎月お参りに来る人々が手を合わせて地藏の前でお願いするだけという形になっている。

本堂の中に15年前に作った地藏さんもある（写真5）。ある人に寄付されたものであり、今でもその人は用があればお参りする。

続いて、お坊さんがいうように、その地域では観音の信仰も深いのだが、地藏様は観音様より人間にとって親しきがあり、一番身近に感じている。「長生きができるように、子供が丈夫に成長できるように」というようなお祈りになり、人間の日常生活の中に深く関わっている信仰である。

また、お坊さんによると、お寺で行われる祭りは8月24日にある。地藏盆というのだが、裏盆とも言って、お盆のつながりで考えてもいい。そのとき供物をあげて供養する。



写真5 寄付された地藏さん 添川、養生寺

4. 巫女さんの役割

地蔵祭りが行われたときに、巫女さんはとても大事な存在だったという。祭りのときに巫女さんはいつごろ子供が生まれるかというような占いをし、当たることもあった。特に村のおばあさんたちは、孫が生まれる前、地蔵さんの前に巫女さんに念仏を唱えてもらい、「丈夫に生まれるように」お祈りしていた。

ときどき、巫女さんに家に来てもらい、仏壇の前で念仏を唱えてもらう。巫女さんに何かを持っていけばそれをあげる。（巫女さんへのお礼は昔は米一升だったが、最近は 5000 円ずつである。）昔は巫女さんが羽黒町にいたというのだが、亡くなってから、そのような集まりはやらなくなってきたという。そして、巫女さんの役割は念仏だけで、占いなどはやらないという意見もあった。また、その巫女さんは仏巫女と言って、神社の巫女ではないということも明らかにされている。つまり、巫女はお祈りだけし、神がかりなどはしない。目の見えないおばあさんで、地蔵祭り以外でも頼めば来るという。そのときは村の真ん中にある大きな地蔵さんを管理するおばあさんは巫女さんのために精進料理を作る。

コサギさんという人が地蔵祭りに参加したとき、巫女さんがいたといっている。そのとき、巫女さんが占いをした。例えば、火が見えると言ったら、火事が起こったりすることもあったという。また、その年何か（事故とか）に気をつけないといけないことがあったら、それも巫女さんに教えてもらう。例えば、「東の方に火が見える」と巫女さんが言ったら、もしかしたら、東の方に火事が起こるかもしれないという意味になる。そして、「怪我をする人がいる」といったら、村の人はそれについて気をつける。当たることもあった。しかし、最近、巫女さんがなくなってから集まりもやらなくなった。巫女の占いをどう思っているかと女性たちに聞くと、「半分信じる、半分本当かなという感じ」と答えた。

5. 地蔵さんに対する供物

地蔵にお参りするときにお護符を持っていく。また、村の真ん中にある大きな地蔵さんを管理するおばあさんのところで巫女さんと呼んでお祭りしていたときは、参加する人は一つの餅をもらう。その餅を家族全員で分けて食べる。それは、健康であり、だれにも悪いことを起こらないように、家族が幸せに暮らしていけるようにという意味を含む行為である。結局、地蔵さんは家族だけではなく、村全体を守る神様と思われているという。カツコさんの宅ではない場合、当番の家で集まって、お餅を地蔵さんの前に持っていくという習慣もある。地蔵さんは丸いものか好きだそう。

また、安産を祈るときは、ろうそくを地蔵のところへ持っていく。火をつけて、お祈りする。ろうそくが小さくなると、出産の時間は短いという意味になる。地蔵さんにお参りしたことがある女性の話者は、ろうそくを持っていて、外は寒かったから車の中でろうそくが小さくなるまで待っていた。そして、そのろうそくを家に持って帰ったと話した。

6. 地蔵さんに着せる服

健康に問題がある人は地蔵の頭を触り、気持ちをこめて地蔵に服をあげる（前掛け、腹巻、写真6）。お腹は多産と安産のシンボルであるので妊婦は地蔵のお腹のところを温かくし、腹巻をつける。昔は自分のものを地蔵さんに着せる前に、そこにあった腹巻を妊婦が持って帰ることもあった。それを自分の体に着せた。ご利益があると考えられていたからである。

地蔵が着ている布の上にお祭りのためにお金をあげた人が自分の名前を書く。頭が痛い場合、地蔵に鉢巻をする。布に家号の名前を書いておくと、ご利益があると思われる。

実は、地蔵さんが家族を守るようにという願いを含めて、布の上に家号の名前を書く。布を店で買い、はさみで三角を作る。首にかかる分と頭に貼り付ける分だけに針を使うが、他の部分には使わないという。

一般に地蔵は寄付されたものとして立てられている。地蔵のところに寄付をした人の名前が書いてある。そのとき布も地蔵に着せて、自分の子供のように気持ちをこめるという。冬ときは暖かい布で、夏ときは少ない布である。



写真6 六地蔵 東堀越、福昌寺の入り口

7. おわりに

今回の研究は地蔵信仰がどういうふうに一般の農民の中で扱われているのか、その特別な関係について調査を行い、データを集めた。一番注目されるのは、昔は地蔵祭りがあったとしても、今はその形が失われていることである。現在は人が自由にお参りしたり、必ず従わなければいけないというルールの解釈も人によって違ったりするのである。しかも、お参りの方法も様々で、個人的に決められるものなので、正確なデータを集めるのは難しい。だが、儀式的にばらばらになっても、地蔵さんに対する人の気持ちは変わっていないと思われる。

4月の春祭りと8月の秋祭りを考えてみると、人によって意見も経験も違ったりする。一番年上の世代は23日（東堀越）、また24日（添川）に行われた集まりには参加したことがあるというのだが、若い世代はただ自由に地蔵にお参りするので、祭りのような形は残っていない。巫女さんが亡くなったからかもしれない。昔はその祭りに女性たちだけが参加するということだった。今でも男性はあまり地蔵には興味がなさそうだが、健康に問題があるときはお願いする場合がある。しかし、一般の常識として地蔵さんとは女性の体を守り、子供を守る仏様だという考え方を私は一番強く感じた。

しかし、地蔵の種類は、実は様々であるので、それによって信者も違ったりする。村の人々は何でも地蔵さんをお願いするというような常識もあるに違いない。とても身近に感じて、日常生活の中に力になれる存在である。女性は女性問題に関してお祈りしたり、男性は健康に関わることについてお願いしたりして、みんなは自分の家族は無事であるようにお祈りする。子供が生まれたら、必ず地蔵さんに感謝を表し、出産の前にトラブルがあったと地蔵さんに声をかけ気持ちを楽しませてもらう。他の仏様は悪い面もあったり、儀礼的に分からないこともあったりするのに対して、地蔵さんは仏教から出た概念なのに全然そういった面がない。地蔵信仰は本当に民間信仰に近い気持ちで崇拝されているのだと考えられる。

参考文献

新谷尚紀、波平恵美子、湯川洋司（2003）『暮らしの中の民俗学2、一年』 吉川弘文館

中山太郎（編）（1998）『日本民俗学辞典』増補合本復刊 東京 パルトス社

新村出（編）（1955）『広辞苑』 岩波書店

<www.ja.wikipedia.org>（2015年8月9日）

<www.onmarkproductions.com/html/jizo>（2015年8月9日）